名古屋大学
NAGOYA UNIVERSITY

令和4年度国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業 研修会

研究データポリシーについて

松原 茂樹

名古屋大学情報連携推進本部情報戦略室

自己紹介

松原 茂樹（名古屋大学 情報連携推進本部情報戦略室）

専門は 自然言語処理

名古屋大学

2002-2010 情報基盤センター ※ **附属図書館研究開発室**（*2002-2016*）
学術機関リポジトリ、
研究資源データベース など

2010-2017 情報学研究科
論文テキストマイニング、
論文作成支援 など

2017- 情報連携推進本部
大学の情報戦略の策定
データリポジトリの自動生成 など
※ **AXIES-RDM部会 主査**（*2022-*）

講演の内容

名古屋大学における
データポリシーの策定
とその後

1. 研究データ管理とは
2. 名大の体制とデータポリシー
3. アクションプランの策定
4. 研究データ管理のこれから

1 研究データ管理とは

2 名大の体制とデータポリシー

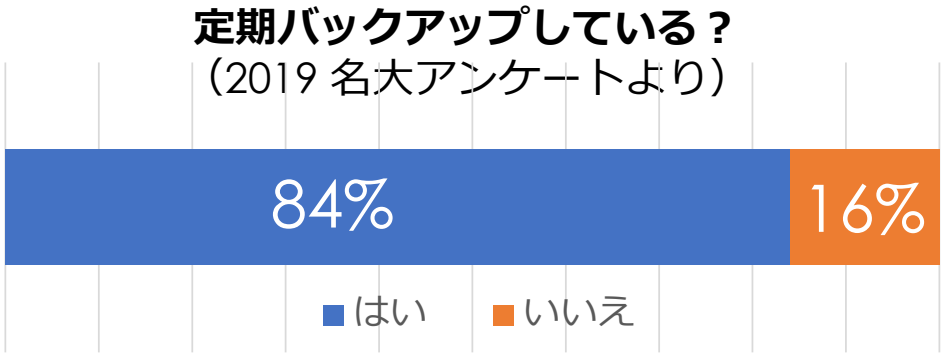
3 アクションプランの策定

4 研究データ管理のこれから

RDM とは

- **研究データ管理：RDM**
  （**R**esearch **D**ata **M**anagement）
  - 研究で使用あるいは生成された情報を適切に取り扱うこと

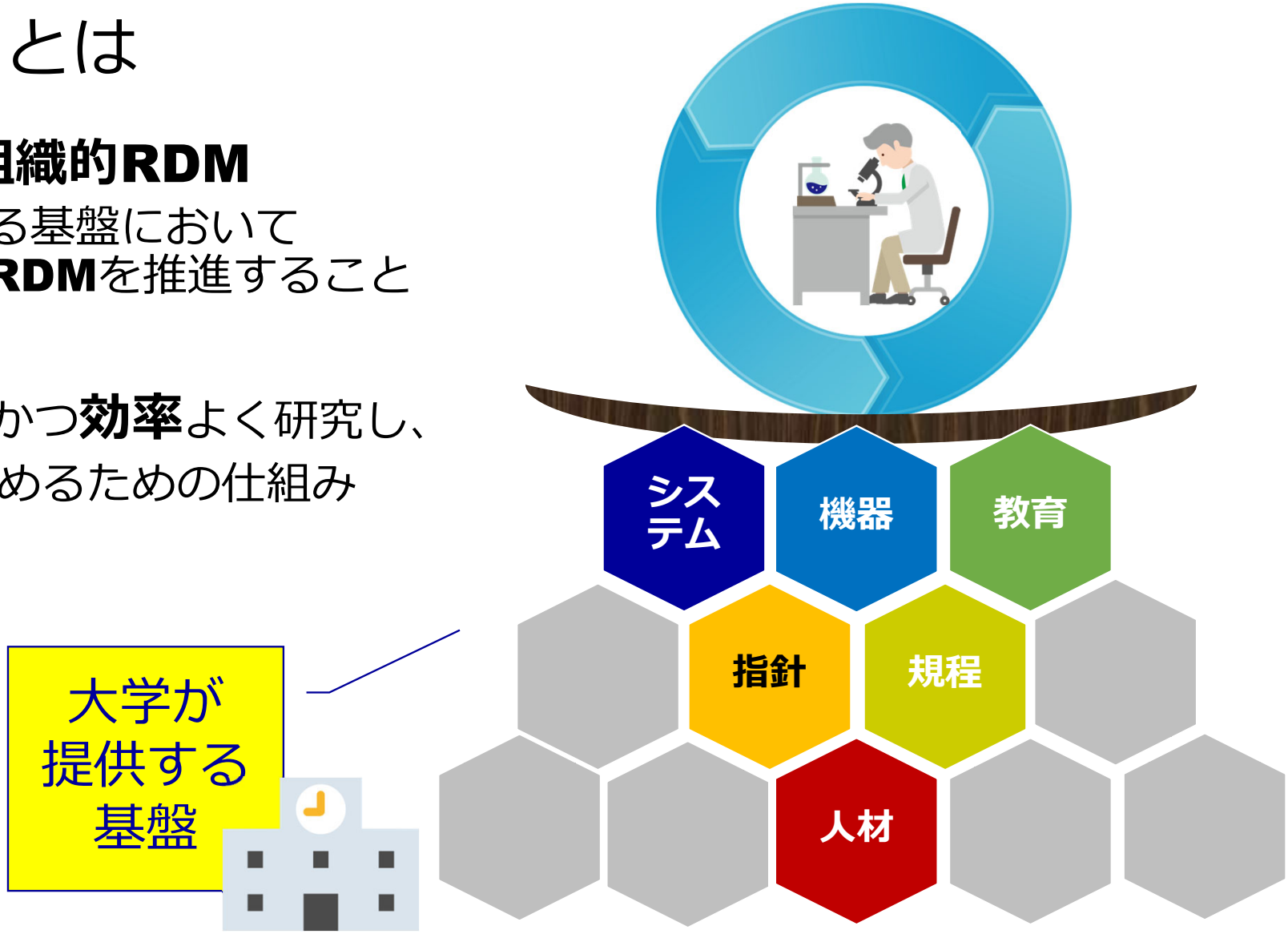
研究プロジェクト（研究者、研究Gr）の活動で**必ず**行われている行為



組織的**RDM**とは

- **大学における組織的RDM**
  - 大学が提供する基盤において
    大学構成員が**RDM**を推進すること

大学構成員が**安全**かつ**効率**よく研究し、
大学の**研究力**を高めるための仕組み



1 研究データ管理とは

2 名大の体制とデータポリシー

3 アクションプランの策定

4 研究データ管理のこれから

名古屋大学における組織的推進

NII Today, No.91 (2021/3) https://www.nii.ac.jp/today/91/2.html

附属図書館

オープンアクセスポリシー制定
(2016/4)

OS! プロジェクトチーム
(2020/12～)

構成
附属図書館(9名)
※名古屋大学中央館、部局図書室および岐阜大学(東海国立大学機構)の図書系職員で組織

活動
▶機関リポジトリ運営
▶研究データ公開・発信に向けた機関データリポジトリ整備
・次期JAIRO Cloud移行
・メタデータスキーマ設計
・支援体制・公開フロー設計
・収集コンテンツの拡大
▶JPCOARとの連携
・次期JAIRO Cloud移行プロジェクト参加
▶NIIとの連携
・RDM支援人材育成のための教材作成

情報連携統括本部(現・情報連携推進本部)

研究データマネジメントプロジェクト(2018/5～)

構成
情報連携統括本部(情報戦略室、情報基盤センター、情報推進部)、
附属図書館、
学術研究・産学官連携推進本部(9名)

活動
▶RDM情報基盤整備
GakuNin RDM 導入
・実証実験参加
・オンプレストレージ導入
・本格運用開始
▶名大データポリシー草案
▶AXIESとの連携
・AXIES-RDM提言草案
・研究者アンケート雛形
・データポリシーガイドライン草案

総長配下の特命WG

研究データ基盤整備WG
(2019/9～11)

構成
主　査:副総長(情報担当)
副　査:情報基盤センター長
構成員:情報連携統括本部(情報戦略室、情報基盤センター、情報推進部)
附属図書館
研究協力部
学術研究・産学官連携推進本部(14名)

活動
▶総長報告(2019/10)
・研究データ基盤整備に向けた体制構築の要求
・基盤整備計画ドラフト(ステークホルダ、組織体制、スケジュール…)

教育研究評議会/研究戦略・社会連携推進分科会

研究データ基盤整備部会
(2019/11～)

構成
主　査:副総長(情報担当)
副　査:副総長(研究担当)
副総長(教育担当)
副総長(IR担当)
副総長(産学官連携担当)
副総長(図書館担当)
情報基盤センター長
構成員:情報戦略室(2名)
情報基盤センター(1名)
情報推進部(4名)
附属図書館(4名)
研究協力部(3名)
学術研究・産学官連携推進本部(5名)
IR本部(4名)
法学研究科(2名)
教育推進部(2名)

活動
▶RDMに関わる学内ステークホルダ集合の場
▶学術データポリシー制定
(2020/10、教育評議会承認)
▶研究データ基盤整備WG設置

教育研究評議会/研究戦略・社会連携推進分科会/研究データ基盤整備部会

学術データ基盤整備WG
(2021/3～)

構成
主　査:副総長(情報担当)
構成員:医学部(2名)
教育推進部(2名)
附属図書館(3名)
IR戦略室(2名)
学術研究・産学官連携推進本部(2名)
研究協力部(2名)
情報戦略室(2名)
情報基盤センター(1名)
情報推進部(3名)

活動
▶学術データポリシーに沿った部署ごと行動計画の策定

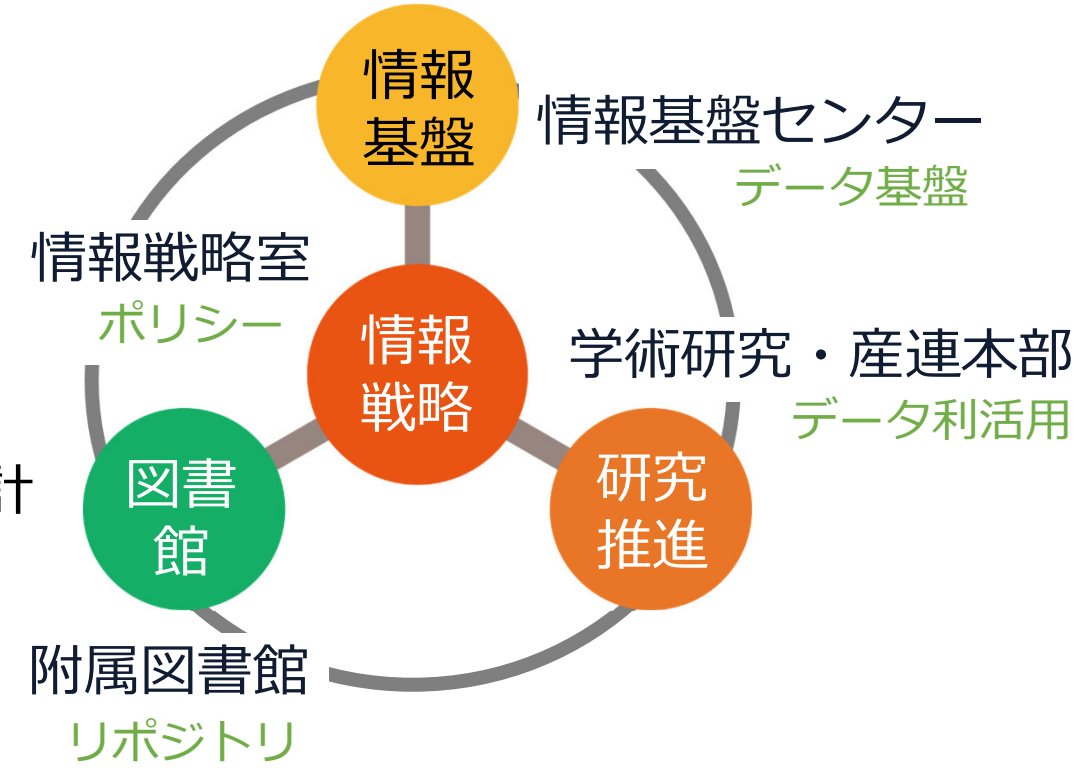
2016/4
2018/5
2019/9
2019/11
2021/3

全学横断的に推進するまでの道のり

- **研究データマネジメントプロジェクト RDM**-PJ **始動**
  - 名古屋大学情報連携統括本部に発足（2018年5月～）

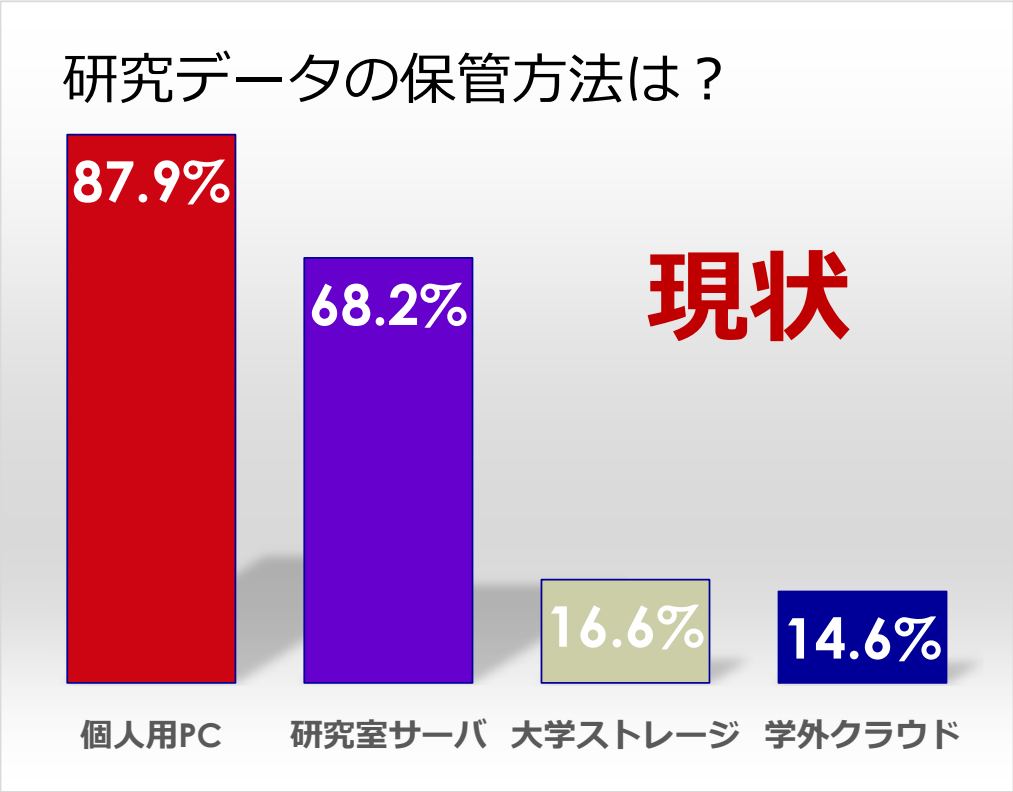
【目的】 名古屋大学における
オープンサイエンス推進に向け、
- **ポリシー**、**実施体制・方法**の設計
- **研究データ基盤**の整備

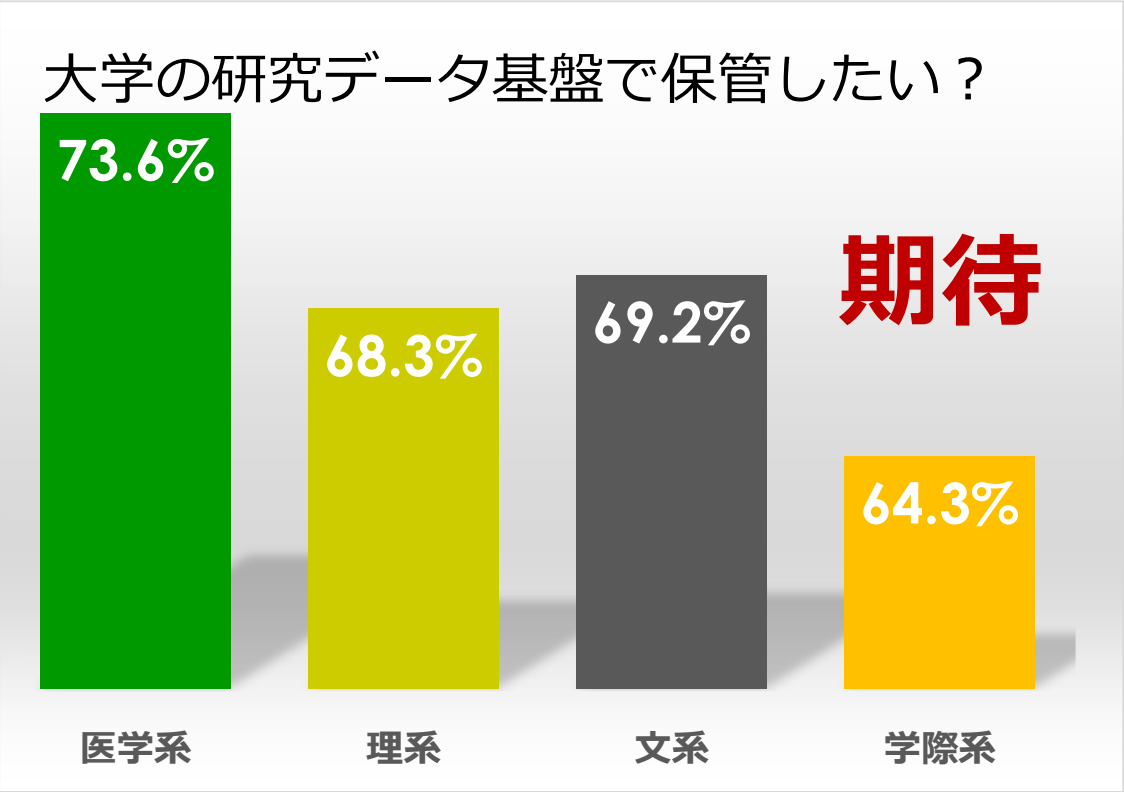
に取り組む。



【RDM-PJ】　RDMの現状と大学への期待

- 名古屋大学における**アンケート**（2019年4月）の実施
  - 名大の教員・研究者 157名 の回答





AXIES RDM アンケート雛形　https://rdm.axies.jp/sig/24/

【RDM-PJ】 GakuNin RDM の導入

-2018 準備
RDM向けストレージを導入・接続し試行

2019-2020 試験
大学ストレージと統合し、実証実験を開始

2021- 稼働
GakuNIn RDM の導入と現状

利用者手引きの作成

ニュースレターで特集

GakuNin RDM

NUSS
Nagoya University Storage Service

対象：名大構成員
容量：**100GB**/人
（名大の教職員限定）

大学ストレージと接続

名古屋大学における研究データ管理

データを利活用する新しい名古屋大学を創る

研究費応募

書類作成

②データ管理計画(DMP)
（科研費など公的資金）

DMP作成支援

研究活動

学内
研究者

学外
研究者

共同研究
グループ

①研究データ基盤
（認証・ストレージ）

データの記録・保
存・共有

オープン化

③研究データ公開
（機関リポジトリ）

研究データの
アーカイブ

公開する
研究データ

メータデータと検索

再利用

利活用する
研究データ

共同研究推進
大学評価・分析

データ
カタログ

④研究データ利活用（研
究推進・産学連携）

⑤研究データ管理ポリシー（規
定・権利・インセンティブ）

- 10年保存
- 知的財産権の整理
- 研究者の評価指標

名古屋大学 研究データ基盤整備部会の体制と実施

学内関連部署
の役割と連携

名古屋大学における研究データ管理の要素と担当

	研究データ管理の要素	関係する部署							備考	補足
		執行部	学術研究・産連本部	研究支援課	IR本部	附属図書館	情報基盤センター	情報連携統括本部		
①	**研究データ管理基盤の導入と運用**									
a	GakuNin RDM(NII研究データ基盤システム）の導入						◎	○	RDM プロジェクト	NIIとの連携
b	研究データ用ストレージの導入と提供						◎	○		利用マニュアルの作成
c	認証基盤、及び、学外共同研究者との共有環境の整備		○				◎	○		GakuNinによる認証
②	**データ管理計画(DMP)を作成する研究者の支援**									
a	公的資金のデータ管理計画（DMP）の動向調査			◎						科研費の動向ウォッチ
b	各公的資金のDMPの調査と研究者の支援			◎						AMED, JST, NEDO 等の事例を参照
③	**研究データのアーカイブと公開・発信**									
a	研究データアーカイブの構築と運用					◎	○			JAIRO Cloud の活用など 文系アーカイブ用データの保存と公開
b	研究データのメタデータの設計					◎	○			JPCOAR仕様に準拠した名大版仕様 既存データのjunii2仕様からの変換
c	研究データの公開体制の整備					◎				データ公開のための体制の整備 メタデータ付加作業環境の整備
④	**研究データの利活用促進**									
a	産学連携における研究データの活用		◎				○			産学連携活動での活用方針の策定
b	名大版 研究データカタログの構築		◎			○				利用案内、広報、研究データへの識別子付与
c	大学の研究力評価における研究データの利用				◎			○		公開データを研究者プロフィールに掲載 研究データの論文における引用解析
⑤	**研究データ管理のポリシー策定**									
a	名大版 データポリシーの策定	○	○			○	○	◎	RDM プロジェクト	オープンアクセスポリシーとの関係整理 退職・異動への対応 研究データ長期保存のポリシー含む
b	研究データ保存・管理に関する学内規定の制定	○	○			○	○	◎	法務室と連携	10年保存ルールとの関係整理
c	研究データの知財管理と制度化	○	○					○		研究データに関わる権利関係の整理
d	登録・公開に対する評価・インセンティブ制度の設計	◎			○					研究者の評価指標

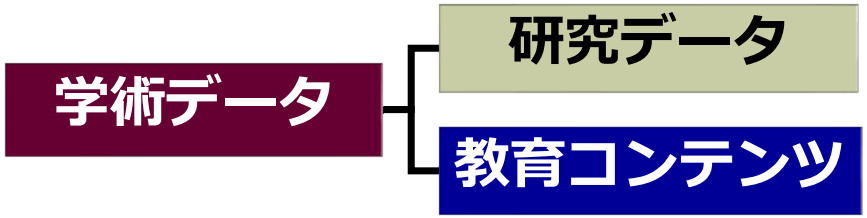
ポリシー策定の過程

2020.01）**素案の作成**【研究データ基盤整備部会】

- 「**名古屋大学学術憲章**」を出発点に

2020.07）**原案の作成**【研究データ基盤整備部会】

- 「**研究データポリシー**」 から
  「**学術データポリシー**」 に



専門家（法・教授）
×２名も検討

解説）ポリシー策定の趣旨と構成
（2020.09 研究データ基盤整備部会）

2020.10.20）**最終案の承認**【教育研究評議会】

http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/

1 研究データ管理とは？

2 名大の体制とデータポリシー

3 アクションプランの策定

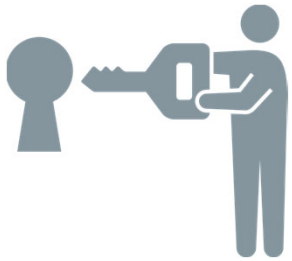
4 研究データ管理のこれから

データポリシー

- **名古屋大学 学術データポリシー**
  http://www.icts.nagoya-u.ac.jp/ja/datapolicy/

構成員の責務

名古屋大学の構成員は、学術データを適切に管理し、可能な限り公開し、利活用に供する



大学の責務

名古屋大学は、学術データの管理、公開、利活用を支援する環境を構成員に提供する

ポリシー の 解説 （大学の責務）

・**名古屋大学学術データポリシー**

本体

大学の責務

名古屋大学は、学術データの管理、公開、利活用を支援する環境を構成員に提供する

解説

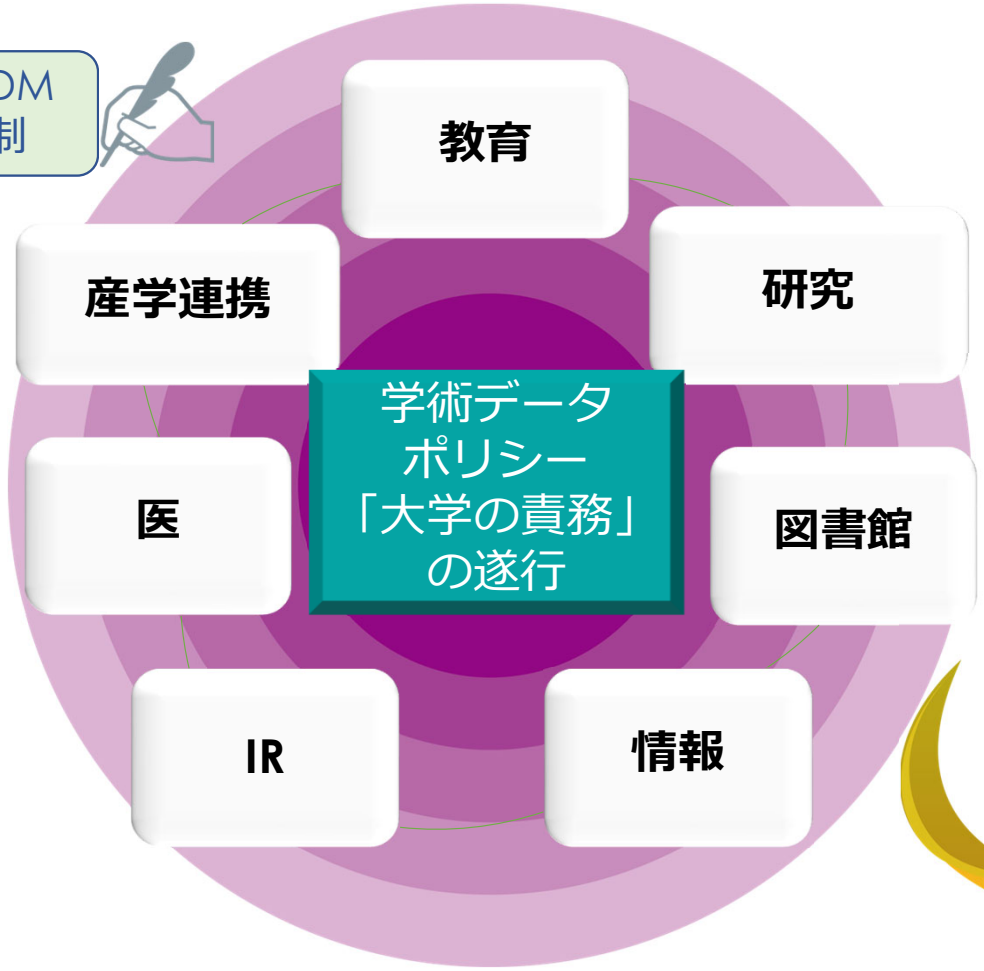
1. 学術データを管理するための**データプラットフォーム**を提供する。
2. **研究データ管理計画**等、学術データの管理に関する計画や行動を支援する。
3. 学術データを公開するための**データリポジトリ**を提供する。
4. 公開する学術データの**メタデータ作成**を支援する。
5. 学術データの**共同研究**や**産学連携**、**アウトリーチ**、**授業**等での利活用を支援する。
6. 学術データに関する**契約**、**法務**等を支援する。
7. 学術データ管理の**取組みを奨励**し、また**実績を評価**する。
8. 学術データの管理、公開、利活用に関わる**規程・実施要項**等を定める。
9. 学術データの管理、公開、利活用に関して**啓発**する。

解説で例示された **9** つの支援項目

ポリシー策定のあと

2020.03）**学術データ基盤整備WG**の設置

必要なRDM
支援体制



プラット フォーム	データ 管理計画	データ リポジトリ
メタデータ 作成	データ 利活用促進	契約・法務
奨励・ 実績評価	規定・ 実施要項	啓発

9 つの支援項目

アクションプラン

学術データ基盤整備WG

- 学術データ基盤整備の要素と担当を整理
- アクションプランを策定

名古屋大学における学術データ基盤の要素と担当

		関係する部署							
	学術データ基盤の要素	執行部	学術研究・産連本部	研究協力部	IR本部	附属病院	教育推進部	附属図書館	情報連携推進本部
①	**学術データ管理のデータプラットフォームの提供**								
a	データ基盤システムの利用モデルの提示と普及					○			◎
b	学外共同研究者とのデータ共有環境の整備								◎
c	学術データ用ストレージの将来設計					○			◎
②	**学術データ管理に関する計画や行動の支援**								
a	公的資金のデータ管理計画（DMP）の動向調査			◎					
b	研究者によるDMP作成と推進の支援			◎				○	○
③	**学術データリポジトリの提供**								
a	学術データリポジトリの運用と充実						○	◎	○
b	学術データ公開の体制と仕組みの整備						○	◎	○
④	**学術データのメタデータ作成の支援**								
a	学術データのメタデータスキーマの整備						○	◎	
b	メタデータ付与の仕組みの整備							◎	○
⑤	**学術データの利活用の促進と支援**								
a	共同研究・産学連携・アウトリーチでの利活用支援		◎						
b	教材など授業コンテンツの利活用促進						◎	○	○
c	学術データカタログ（名大版）の作成と利用		○				○	◎	○
⑥	**学術データに関する契約、法務等の支援**								
a	学術データに関する契約・法務の支援		○			○			○
⑦	**学術データ管理の奨励および実績の評価**								
a	学術データの公開・利活用の評価・制度設計	◎			○				
b	学術データの作成・公開情報の収集と利用				◎				
⑧	**学術データに関する規程・実施要項等の策定**								
a	学術データの保存・管理に関する学内規程の整備	○		○			○		○
b	学術データの保存・管理に関する部局内規程の整備					◎			
c	学術データの知財管理の規程整備		○				○		
⑨	**学術データの管理、公開、利活用の啓発**								
a	学術データの扱いに関するリテラシー教育		○	○			○	○	○
b	学術データポリシーに関わる取り組みの普及	○	○	○	○	○	○	○	○

学術データ基盤整備基本計画

構成と担当

- 基本計画の構成
  - **まえがき ＋ 各項目の施策**

ビジョン

- 近い将来のあるべき姿

達成目標

- ビジョン実現のための達成事項

施策内容

- 2021～2023年度の施策計画

名古屋大学学術データ基盤整備基本計画：構成

ポリシー	施策項目	ビジョン	内容 2021-2023
学術データの管理・公開・利活用の支援環境を提供	1．データプラットフォーム	学術データを大学が提供するデータプラットフォーム上で管理できる	4 施策 【情報/医/図書】
	2．データ管理計画	大学による支援のもと、研究助成機関の求めに沿ったデータ管理計画を作成できる	2 施策 【研究】
	3．データリポジトリ	学術データを、本学が提供するデータ公開基盤において公開できる	3 施策 【図書】
	4．メタデータ作成	公開する学術データに、国際的な相互運用性を備えたメタデータを付加できる	4 施策 【図書/情報】
	5．利活用促進	学術データを、共同研究や産学連携、アウトリーチ、授業等で利活用できる	5 施策 【産連/図書/教育/情報】
	6．契約、法務	学術データを、利用者との契約のもとで利活用に供することができる	1 施策 【WG】
	7．奨励・実績評価	大学における学術データの管理、公開、利活用の取り組みを評価できる	3 施策 【IR/図書】
	8．規程・実施要項	学術データの学内規程・実施要項が策定され、そのもとでデータ管理・公開・利活用を推進する	3 施策 【WG/教育/医】
	9．啓発	大学構成員は、学術データを適切に管理し、可能な限りそれを公開し、利活用に供する	3 施策 【WG/図書】

名古屋大学学術データ基盤整備基本計画：主な施策

	2021	2022	2023
①データ基盤	**・NIIデータ基盤の利用**	・データストレージ認証の多要素化 ・セキュア・データストレージ整備	・リポジトリ連携
②データ計画	**・DMP作成支援の整理**	・DMP作成支援体制の整備	
③リポジトリ	**・データ公開フローの整備**	**・リポジトリの容量増加** **・データ登録体制の整備**	**・データ公開ガイダンスの実施**
④メタデータ	**・メタデータスキーマの設計**	・データキュレータの育成 **・メタデータ付きデータ公開**	・データストレージ連携
⑤データ活用	**・教育コンテンツの収集**	**・デジタルアーカイブデータの公開**	・教育コンテンツの利活用 ・リポジトリ連携
⑥契約・法務	**・利用許諾の契約に関する規定や要項の検討**		
⑦奨励・評価	**・教員DBへの学術データに関する項目の追加**		・学術データ公開・利活用の分析
⑧規程・要項	**・関連する学内規定の集約**	・構成員向けガイドラインの策定	
⑨活動の啓発		・公開セミナーの開催 **・大学院生向け講義の開講**	**・構成員向けガイダンスの開催**

1 研究データ管理とは？

2 名大の体制とデータポリシー

3 アクションプランの策定

4 研究データ管理のこれから

名古屋大学における
データポリシーの策定とその後

組織的**RDM** の今後

1. **データ管理**から**プロジェクト管理**へ

- 研究プロジェクト推進の基盤を
  大学が提供する

  プロジェクトIDの発行と運用 など

2. **組織的RDM** の推進を**地区で連携**

- 大学間での**RDM基盤の共有**
  - 専門人材、情報基盤、人材育成、
    データ共有、RDMノウハウ など

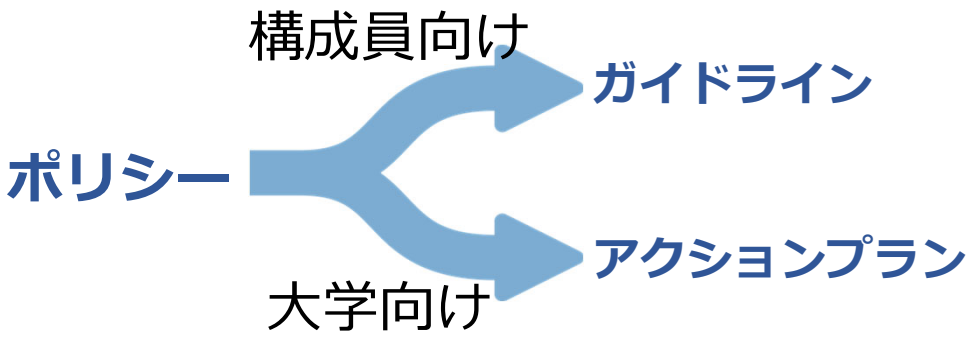
公開セミナーの開催

- **東海地区 学術データ基盤セミナー**
  - **日時**　2022年12月2日（金）13:30～16:00 頃
  - **場所**　名古屋大学 情報基盤センター 演習室
  - **内容**　東海地区を中心とした大学のステークホルダーが集まり学術データ管理のあり方を議論する場を提供する
    - 松原 茂樹（名古屋大学）「学術データ管理の組織的推進」
    - 古川 雅子（国立情報学研究所）「学術データ管理の人材育成」
    - 西岡 千文（国立情報学研究所）「学術データのオープンアクセス」
  - **主催**　名古屋大学 学術データ基盤整備ワーキンググループ
    国立情報学研究所

参加など詳細は、名古屋大学情報連携推進本部 Webサイト で

まとめ

- 学術データポリシーの策定と
  その後の取り組み
  - 全学横断的WGの設置
  - アクションプランの策定



ポリシーの策定 を 組織的推進の力 に

課題

1. ガイドラインの整備
2. 学術データ人材の養成
3. 学内の推進組織の整備

2023年 メタデータ検索の体制
2023年 メタデータ付与の仕組み
2025年 データポリシーを策定